

令和3年度第1回前橋市総合教育会議 会議録

日 時 令和3年7月12日（月） 午後3時00分から午後3時56分まで

場 所 市役所11階北会議室

(市長)

山 本 龍

(教育委員会)

教 育 長	吉 川 真由美	教育長職務代理者	奈 良 知 彦
委 員	石 井 裕 美	委 員	溝 口 健 介
委 員	高 濱 正 伸		

(事務局)

教 育 次 長	藤 井 一 幸	指 導 担 当 次 長	都 所 幸 直
総 務 課 長	片 貝 伸 生	教 育 施 設 課 長	井 野 寿 志
文化財保護課長	上 野 克 巳	学 校 教 育 課 長	相 原 吉 次
前橋高等学校事務長	高 橋 之 彦	生 涯 学 習 課 長	関 口 知 子
青 少 年 課 長	阿久澤 正 彦	総 合 教 育 プ ラ ザ 館 長	金 井 幸 光
図 書 館 長	若 島 敦 子		
未 来 創 造 部 長	青 木 一 宏	政 策 推 進 課 長	草 野 修 一

教育次長　　これより令和3年度第1回前橋市総合教育会議を開会いたします。本日の進行は事務局で務めさせていただきます。
概ね1時間程を予定していますので、よろしくをお願いします。
それでは最初に山本市長からご挨拶をお願いいたします。

市長　　新しい年度、最初の総合教育会議でございます。各委員には、急な大雨の中、駆けつけていただき、ありがとうございます。
また新委員であります高濱先生におかれましては、初参加ということで、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。
先程まで、10階の教育委員室でタブレットの使い方の今までの実践報告を私たちも拝見させていただきました。色々な形でのチャレンジが進んでいるのだなと考えております。そういう意味で、学校教育だけでなく、社会教育の一つの道具として、このタブレット端末というものをどうやって活用していくのか、そのあたりのことも大変楽しみにしております。
また本日は、高校生学習室が出来たことへの議論を中心に社会教育における様々な課題についての各委員からの議論をいただけると聞いておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。私自身のご挨拶は以上にとどめたいと思ひます。　ありがとうございます。

教育次長　　ありがとうございました。
それでは、協議事項に入らせていただきます。
本日の議題は「高校生や若者の力を活かす前橋モデルの構築～前橋市の社会教育の現状とこれから～」についてです。始めに、教育長より一言申し上げさせていただきます、そのあと、概要をご説明し、意見交換をお願いいたします。
それでは、教育長、お願ひいたします。

教育長　　この総合教育会議は、市長と教育委員会が意思疎通を図り、教育のあるべき姿を共有する、また協議をするという大変貴重な機会です。
本日は令和3年5月31日に前橋市社会教育委員会議から提出されました提言を踏まえまして、本市の社会教育の中で、高校生や若者の力をどのように引き出し、地域に生かしていくのか、その仕掛けづくりはどうしていったら良いのか、それぞれのお立場やご経験を踏まえ、ご意見をたくさん頂戴できればと思っております。
限られた時間の中ではありますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

教育次長　　ありがとうございました。
続きまして、概要につきまして、指導担当次長からご説明させていた

だきます。

指導担当次長

指導担当次長の都所でございます。本日の総合教育会議では、高校生や若者の力を活かす前橋モデルの構築というテーマでお話をさせていただきます。その後、皆様から幅広くご意見を頂戴できたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。この後は着座にて説明させていただきます。

本日の内容ですが、スライドにあるように、大きく分けて3つのことについてお話をさせていただきます。

みなさんは「社会教育」というと何を連想されるでしょうか。社会教育法では、「学校教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動」とあります。つまり、学校教育以外は全て社会教育の範疇となります。それではあまりに範囲が広がってしまいますので、ここでは、生涯学習課が所管している社会教育事業につきまして、説明させていただきます。

はじめに、令和3年5月31日に、前橋市社会教育委員会議から提出された提言書について、概要を説明させていただきます。

社会教育委員会議は、社会教育に関し、教育委員会へ助言することを目的に設置され、年4回程度開催されています。その会議に参加する社会教育委員は、教育委員会が委嘱し、社会教育に関する諸計画を立案したり、教育委員会への答申や意見を述べたり、必要な研究調査を会議の中で行ったりします。構成員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、学識経験のある者と規定されており、本市では公募を含む12名の委員が2年の任期の中で会議を行っております。

社会教育委員会議では、「異世代間協働まちづくり」という視点で、十数年協議をしていただきました。2007年から2017年の各提言に掲げた「学びの在り方としての前橋の仕掛け」の積み重ねが、本市が目指すべき社会教育のモデルを模索していくプロセスであり、今回の提言では、「若者」という要素をそのプロセスの中に取り入れた提言をいただきました。

この度の提言を総括すると、前橋市が目指す社会教育のモデル、これを「前橋モデル」と呼びますが、このモデルは、「誰一人取り残すことなく、全ての世代の市民が学びと協働を通してつながりあい、地域にその学びを還元することを目指す」ことであり、その取組を磨き上げていくためには、高校生や若者の力を活かしてリアルとバーチャルのそれぞれの良さが交わる学びへと発展させる必要がある」というものでした。

さらに、若者の力を活かす仕掛けとして、地域課題の解決に向けて活動する意欲と能力を備えた若者が存在することを認識して、若者が地域

の活動を通して豊かな実りを収められるよう、具体的に支援する仕掛けを創出していかなければならない、と提言をいただきました。

一方、高校生の学びについては、平成30年3月の高等学校の学習指導要領の改訂により、より良い学校教育を通じてより良い社会を創するという目標を共有し、社会と連携・協働しながら新しい時代に求められている資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を図ることが求められています。社会に開かれた教育課程の実現のためには、地域社会の理解が不可欠です。また、地域課題解決などの探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核として、高等学校の機能の強化を図ることも示されています。探究的な学習を通じ、地域の人々と高校生が一緒になって地域課題の解決や改善に向けたアイデアや方策を考えることが大切であり、両者にとって学びの意義と価値が見いだせるものでありたいという提言をいただきました。

公民館への期待としては、若者と地域を学びでつなぐコーディネート機能がより一層求められること、そして、地域に出て学ぶ若者や高校生とそれを受け入れる地域の人たちの両方に学びがあることを意識して、評価や成果の可視化などを含む学びの組織化を実現するように導いていく役割が求められる、と提言をいただきました。

続きまして、本市の社会教育の現状についてご説明いたします。

本市の教育行政方針は、第2期前橋市教育振興基本計画に基づき、年度ごとに、行政が取り組むべき具体的な施策を定めたものですが、学校教育分野、青少年教育分野、社会教育分野、教育環境整備分野の4つの分野で構成されております。

このうち、社会教育分野にあっては、「主体的な学びの実現につながる学習機会の提供」や「公民館・コミュニティセンターの充実」、「地域で活躍する人材の育成と活用」、「社会教育施設等の整備」を施策の柱として設け、地域づくりに生かす社会教育の推進に取り組んでおります。

生涯学習課で取り組んでいる事業ですが、「子育て親子支援」、「青少年体験チャレンジ活動」「生涯学習奨励員活動支援」「自主学習グループ活動支援」「明寿大学」「人権教育事業」「文化祭」など、地域課題の解決や地域住民の交流につながる事業を行っております。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、人が集まったり、交流したりすることが難しくなりました。

そのような中でも、地域の方々の学びを止めないよう、各公民館では、従来型の対面式による講座以外に、市公式YouTubeチャンネルでの動画配信、web会議システムによるオンライン講座、ラジオ講座、紙面講座など非接触型の手法を活用して、地域団体ほか多様な主体と連携協働により、事業を実施しております。

コロナによって制限をされてしまった部分は否めませんが、新しい可

能性を創出するべく日々の事業について検討を行っているところです。最初に、提言書の概要の説明の中で、「若者」の要素を取り入れた提言をいただいたと述べましたが、各公民館では、若者を活用した講座を行っていない訳ではありません。

ここでは、これまでに高校生や大学生などの若者が公民館事業に参加した事例を一部紹介させていただきます。

まず、高校生ですが、前橋南高校の美術部による夏休み絵画教室や吹奏楽部によるクリスマスコンサート、県立前橋高校大道芸部による小学生向けの講座や、前橋西高校書道部による、書道教室などを行いました。

大学生については、工科大学生によるプログラミング体験教室、群馬医療福祉大学生による夏休み宿題手助け教室、群馬大学生による地域寺子屋の延長版など行いました。

社会教育事業に参加した高校生や大学生にとっても、学んだことをインプットするだけでなく、アウトプットすることでさらに自分の学びを深めることができます。若者の地域貢献を通して自己有用感を高めることにつながるこのような事業は、大変意義のあることです。しかし、高校生や大学生が参加するためには、地元の高校や大学等との連携が必要ですが、特定の部活や一部の大学に留まり、地区内に高校や大学等が無い公民館では、これら若者の力を活かす機会がありませんでした。

それでは、これからの社会教育に求められる高校生や若者の力を活かす仕掛けについて説明させていただきます。

仕掛けの代表的な取組として、令和3年5月1日にJR前橋駅北口の複合商業施設「アクエル前橋」2階に「前橋市高校生学習室」をオープンいたしました。本施設の設置については、高校生模擬議会や本市への提案・意見において、高校生から要望があったものです。設置の目的は、「高校生のための自主的な学びの場を提供することで学力の向上を図り、進学や就職などそれぞれの希望実現に向けての一助とすること。また、相談、情報提供、仲間づくり、社会参加を通じて自立心や地元愛を醸成し、地元定着やUターンの促進を図ること。さらに、ここに集う市内及び近郊の高校生等を交流させることで多様性を育み、相互成長を促して次世代を担う人材を育成すること。」でございます。

施設の運営管理は、公募型プロポーザル方式を採用し選定した結果、「特定非営利活動法人Next Generation」に業務委託することになりました。スタッフは20代前半の大学生を中心とした若いメンバーでございます。若者の発想や創意工夫、建設的な意見を尊重して、自主性を重んじながらの運営体制づくりを大切にしたいと考えております。

現在は主に自主学習スペースとしての運営に注力しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いてきましたら、高校生同士の

交流事業や支援事業等を行っていく予定です。先日学習室において、高校生からボランティア活動の相談を受けました。若者が地域活動に参画することは、地域の活力向上につながると思います。ボランティア活動に関する情報を収集発信して、高校生が地域に出ていくきっかけづくりができれば良いと考えております。

また、先程お話ししましたが、公民館では、地区内の高校との連携はあっても特定の部活に限られていたり、高校がない地区では連携が図れていなかったりしています。今後、公民館事業に高校生学習室の利用者を活用できないか、模索していきたいと考えております。さらに、学習室利用者が高校を卒業して大学進学や就職した後も、学習室の事業運営や地域活動に協力してもらえるようなつながりをつくっていかねばと考えております。その他、公民館においても、引き続き高校生や大学生などの若者の力を活かす仕掛けづくりを行い、学校や大学との連携を図りながら、若者の活動の支援を行っていききたいと思います。

以上、高校生や若者に係る事業や取組についてお話をさせていただきました。

「前橋モデル」を磨き上げていくためには、高校生や若者を社会教育に巻き込んでいく必要があります。そのためにはどうしたらよいか、今回お集まりの皆さんからぜひ忌憚の無いご意見をいただければと思います。それでは、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

教育次長

ここで、高校生や若者の力を活かすための仕掛け作りの方法やその必要性につきまして、ご出席をいただいております皆様よりご意見を頂戴したいと思います。

意見交換につきましては、教育長に進行をお願いします。

教育長

今、説明がありましたけれども、その中で高校生学習室についての説明がありました。オープンしてから約2か月が経ったところですが、ボランティアをしてみたいというような声が寄せられているとの話もありました。他に高校生からどんな声が寄せられているのか、現時点でありましたら、教えてください。

生涯学習課長

運営しているスタッフが現役の大学生等で、年も近いこともありまして、結構身近なご意見をいただいております。

いくつか、紹介します。

「家だと集中出来ないけれども、学習室に来て勉強出来ているので、助かっている。」

「他校の人が一生懸命勉強している姿を見ると、自分も頑張ろうという気持ちになれる。」

「勉強を教えてくれる人がいたら、うれしいな。」

「他校の人と交流してみたい。」

そのようなご意見をいただいております。

教 育 長

ありがとうございます。現在は高校生学習室でしっかりと勉強してもらおうというのが、まず、最初だと思うのですが、その機能を色々使いながら、高校生の交流の場にできたら良いなと思っています。

まず、はじめに奈良委員さんにお伺いしてよろしいでしょうか。ご意見伺えればと思います。

奈良委員さんは高校教育の現場にも長く携わって来られましたし、またザスパの社長としての経験もあります。奈良委員さんから何か、高校生・若者の可能性・活かし方というのは、どのようなものがあるでしょうか。

奈良職務代理者

高校教育の現場に長くいたというところで、皆さん、多くの人も感じていると思いますけれども、やっぱり、一人一人個性がありますので、一概にこうだと言えませんが、人って皆そうだと思います。

様々な性格や個性を持った高校生が、学校という一つのカテゴリの中で、それぞれが認め合ったり、競い合ったりしながら、自分や他者とともに成長させていくところだと思います。一般的には、社会とか集団の中に、集団を作りたい、集団の中にいたいということは、多くの若者は持っているのではないかなと思います。その中で、自分の存在、自己肯定感というのですかね、自分が人の役に立ちたい、人を助けたい、何か役に立ちたいというような気持ちでいる子は少なくないのではないかなと思いますし、また、その中でも活躍したいというようなこともあると思います。

色々性格がありますから、一概に言えないですけども、このテーマに沿うと、公民館やコミュニティの場、学校から一つ離れた集団の中に、自分から積極的に飛び込んで行くということは、やや苦手な生徒が多かったと思います。だからやっぱり仕掛けが必要なのではないかと思います。その一つが、今、説明にありましたけれども、文化部の生徒が自分の活動している書道や大道芸人のパフォーマンスや色々なことで、地域に出て行くとなったら、あの学校もやっているから俺たちもやろう、私たちもやろうというように、他校も気にしたりもするので、動機付けになるかなと思っています。やはり一つ、背中を押してやると、一歩踏み出すかなと思います。一歩踏み出すと二歩も三歩も自分たちでどんどん歩き始めて、どんどんどんどん加速していく。そんな若者が多いのではないかなと。これは私の個人的な感想、感覚ですけども、思っています。仕掛けが大事だと思います。

教 育 長	<p>ありがとうございます。高校生になると行動範囲も広がってくると思います。小中学生とは異なった行動もできるようになると思います。高校生ならではの活動とか、高校生の特徴とか、どのようなところにあると思っていच्छやいますか。</p>
奈良職務代理者	<p>私も歳をとって高校生の時のことを忘れてしまいましたが、やっぱり共通の趣味とか、あるいは目的。そういったところで、人とつながりたいということになりますし、そういうところから、より広く、高くって言うように進んで行くのではないですか。高校生ならではの行動というのは、どうなのかな、私からは答えにくいですけど。</p>
教 育 長	<p>高校生と私たち社会人が、社会教育の中で高校生にもう少し出てきてもらえるようにしたいと思ったときには、どのようにしたら良いですか。</p>
奈良職務代理者	<p>やっぱり認めてあげて、高校生だからということで、「まだまだ子供だ。考えが甘い」とか、「そんなことではダメだ」というのではなくて、「すごいな。それ教えてくれよ」とか、「それやってみな」とか、やはり否定ではなくて、認めてあげて、見守ってやるというそれが大事だと思います。本当に褒めることも大事ですし、認めてあげれば、どんどん社会教育の中にもつながってくるのではないかなと思います。</p> <p>もし、公民館に高校生が行って、「高校生ダメだな」、「そんなんじゃダメだよ。まだまだ未熟だよ」なんて言ったら、やっぱり行かないですよね。そういう雰囲気ではなくて「やっぱり今の高校生ってすごいな。そういうの教えてくれ」とか、「一緒にやろうよ」というようなスタンスがより活動が活発になるのでないかなと思います。</p>
教 育 長	<p>家族から褒められるとか、仲間からすごいなと思われるとか、学校で褒められることとはまた異なって、社会の中で認められるということにあると思います。</p>
奈良職務代理者	<p>そうですね。自分の知らない人からも認めてもらう、その一言というのは大きいと思います。</p>
教 育 長	<p>社会人も教えるとかではなくて、本当に一緒にやってみようよというスタンスで若者と付き合っていくということが大事ですね。</p>
奈良職務代理者	<p>そうですね。そういうところがどんどん広がってくると思いますし、足を運んでくれる回数も増えてくるのではないかなと、私は思います。</p>

教 育 長 ありがとうございます。石井委員さんに話を伺えればと思うのですが、石井委員さんは保護者の立場ということで、高校生、若者というのは、どういうところに興味があって、どのようなところに保護者として力を活かしてほしいとお考えでしょうか。

石 井 委 員 現代の高校生、若者はどんなことが好きなのか、興味があるのかというのを考えましたときに、本当に人それぞれであり、無限大、多種多様であると思いました。

先程のご説明の中にありましたが、自分でやってみたいことを本当に実際に実現して積極的に社会に参加している方もいらっしゃると思います。とても素晴らしいことだと思いました。

人それぞれであるのですけれども、この年代の方々は、自分で考えて、答えを見出していく、大切な時期だと思っております。大人が何かを強制することではなくて、若者、高校生たちが、心の中で共感する出来事があったら、本当にそういう考えを持っている方がたくさんいらっしゃると思いますので、そういった自分の好きなこと、考えていること、やりたいことを公民館を通して、その力を活かしていただきたいと願っています。

そして、その若者が、やってみたいことを保護者を含む私たち大人は見守って応援することが大事なのではないかと思いました。

加えて、その若者が発想から途中過程、運営まで全てを行うことも大事だと思います。それによって達成感を味わうことが出来ると考えますし、こういった経験が将来の職業や自分像に結びつくことができれば良いことだと思っています。そのためには、受け入れる側の体制や仕組みづくりも大切なことだと思います。本当に若者は今、SNSが発達しているので、高速Wi-Fiの環境の整備もその一つだと思いますし、若者の意見を聞く場を設けるなど、そういったワークショップの開催なども必要なのかなと考えました。

また、受け入れるプロセスをしっかり構築して、子供たちの力やその原石を見出すことも大事なのではないかと思いました。

公民館は生活の中で気軽に人々が集うことができる場所だということでありましたので、ネット社会で何でも済んでしまう時代ですが、だからこそその公民館の活用法とか、ハードの面の構築、特化した新しい公民館の形などを考えていくのも良い機会なのではないかと思っています。

教 育 長 私たちが高校生の時には、自分の家に勉強部屋があって、あまり外で勉強するという習慣はなかったかなと思いますが、今の高校生はどこか外に行って、自分のスペースを確保して、勉強していく。私たちのころとは、随分違う、変わっているなと思います。

石井委員さんが、子育ての中で感じた、高校時代のお子さんにこんな

ことをしてあげられたら良かったのということはありませんか。

石井委員 現在も高校生がいるのですが、一番気をつけているのは、先程奈良先生もおっしゃいましたように、認めてあげることです。こちらが良いと思ってやったことだとしても、子供にとっては、全く良くなかったことだったりするときもあるので、本当に、私はひとつひとつ、子供と確認しあいながら、そこで信頼関係などを構築しながら、今、子育てをしているような状況です。

教育長 なかなか認めるというのが、親だと難しいなという時があります。褒めるというのは、意外と簡単だったりして、「上手だね、出来たね」と褒められるのですが、本当にその子を認めてあげるといのは、保護者にとって、難しいことだなと思う時があります。それを全然違う、第三者から認めてもらえるといのは、これは子供にとってとても大きなことなのかなと思います。

石井委員 その通りだと思います。

教育長 ありがとうございます。続きまして、溝口委員さんにお伺いしたいと思います。医師の立場として、たくさんのお子さんに関わっているかと思ひます。溝口委員から見て、今の高校生といのは、どのように映っていますでしょうか。

溝口委員 私は児童精神科医です。その点では、皆さんと違って、表側から子供を見ていません。悩みや障害を持っている子たちを見てるので、どちらかといると、裏側を見ている格好になると思ひます。そして、ここ何年か見ていて感じるのは、例えばいじめの問題にしても、昔はいじめる子がいて、それを止める子がいるというパターンだったのが、今はそうではありません。悪意を持っている人に自分に悪意を向けられないように、その子に同調するというパターンが多くなってきた。要するに、いじめられている子を守るよりも自分を守ることが優先になったといような状況がちょっと見えているような気がします。

その中で、今回のコロナ禍もそうですけれども、善意でやっていくのはなかなか無理だと、自粛したからといってそんなにうまくいかないという感じにみんななっている気がします。そうすると、それをどうひっくり返すのかといことが大事になるだろうと思ひます。先が見えないし、今、大人たちが言っていること、それから、自分たちが感じていることが、先へどこにつながっていくのか良くわからない。大人に聞いたらそれを教えてくれるのかといと大人も良くわかっていない。親御さんたちもお話ししていてもよくわからない。それだから、今のことだけ

一生懸命言うという親御さんが多い。というようなことが起こっているだろうと思います。

もう一つコロナの問題ですけれども、エビデンスだとかデータだとか、科学だとかいうものも、なかなかそう強くはないのだということが見えてきたわけです。そうすると、そんなことがどうなのだろうかということも起こって来ているかも知れません。

何がどうして、どうなったら、どこにたどり着くのかっていうのは、たどり着かないかもしれないけど、こういうふうになりそうだよということはどうやって示せるのかなという感じがします。そこへ一生懸命というか、ずっと付き合っていける人たち、付き合う大人というのが、今の子供たちは少ないような気がします。そういう点では、私なんか、一番下が2歳半くらいからずっと大人になるまで見ているわけですが、ずっと付き合うわけです。そう言っても私もいつまで付き合えるかわからないですけども、付き合うと言ってきました。そういう付き合い方ができる人たちというのは、そうやっぱり世の中にいない。だからもうちょっと長い期間で付き合っていける社会の大人たちというのがいてくれると、彼らにとって良いのだろうし、それが、必ずしもすごい出来たり、やれたり、すごい人でなくても良いのだと僕は思うのです。ずっと付き合える、なんとなくずっと一緒にいてくれる大人たちがいてくれて、そういう場があるということが良いのかなという気がしています。

私、鑑別所なんかにも行っているのですが、少年犯罪はものすごく減っています。それは、犯罪になるようなことをする子というのは、やっぱり少なくなったのですね。そんなことをしてもしょうがないってみんな思っているわけです。思っているのだけど、そこまでは行かないけれども、なんとかならない子たちもいっぱいいて、今日のお話もそうですが、上積みのすごくできる子たちが凄く良い活動をしているというのもすごく大事なことになるだろうけど、途中で濁っていたり、沈殿していたりするような子たちも一緒に巻き込んで、それをかき混ぜて、なんかやっつけていけるものというのが、良いかなという気がします。

出来る子は放っておいてもできるのだからと僕は思っているし、それをもう少しそういう子たちと混じり合わせて、それを大人たちがやはり指導するとか、どこかに持っていくというのはなくて、それに付き合っついてやれるということが出来ると良いのではないかなと思っております。

教 育 長

学校教育の中では、学習指導要領などがあって、しっかりと学力を身に着けていく、友達とも関わっていく、先生も見えていくというのがありますが、小学校であれば6年間、中学校であれば3年間、そして高校3年間と比較的人生の中では短い期間の付き合いになってしまうわけで、

ずっと付き合っていく、その子をずっと見ていってあげるということが、とても大事なのかなということを感じたのですが。

溝口委員 やっぱり担任とか言っても、一年一年変わっていったりしますし、なかなかずっとはいかないのではないかなと思うのですね。そこでもうちょっと長い期間、一緒に付き合ってくれる大人というのがいると良いのではないかなというふうに思っています。

教育長 そういった意味で、学校教育と社会教育、一人の人間がずっと成長していくためには、両方必要、とても大事なもののなのだなと感じました。ありがとうございます。

続きまして、高濱委員さんにお伺いできればと思います。民間のお立場から公教育への支援も行われてきたご経験から、官民一体となって高校生や若者の力を活かす、そのために仕掛けをどうするかということについて、ご意見を伺えたらと思います。

高濱委員 今日のこのテーマに絞りこんで言うと、他の高校生たちも「これって始まったらしいよ。やらない？」と言い始めるような巻き込む力と、ワンイベントだったら、色々やって見せることができるのですけれども、ずっと何年も続く持続可能性みたいなところが勝負だと思っています。それは何かと言うと、本質的な魅力があるということか、もしくは実利。その2つがキーワードだろうと思っています。本質的な魅力、大きく3つ例を挙げようと思うのですけれども、一番思っているのは、それなりにちょっと小儲けできちゃうという、例えば高校生社長みたいな、起業家というのが結構流行っているので、例えば、2つ、農業と衣服の例を挙げます。

「みんなビレッジ」といって、東京は空き地があるので、その空き地で野菜を作る。それは小学生から高校生まで入れる。高校生がリーダーになって、作りたいものをみんなで話し合っ作る。その中に障害の子もいます。まさに混じりあわせているのですけれども、作ったものを駅のマルシェなどで売って、上がった実利をどうするか。我々から見ても結構高いです。だけとお母さんたちは物語に引き込まれて買うので、結構なお金になります。それをどうするかは、侃侃諤諤、みんなめっちゃめっちゃ話し合っ、寄付しようという方向になったチームもあるし、山分けしようというところもあるし、次の種を買おうというところもあるし、まさにビジネスです。コミュニティがものすごく熱くなります。だんだん自分が大きくなって高校生になってリーダーになるみたいなところで持っていこうと思って、まだ3年目ぐらいなのですが、やり始めています。それは各地域でも農業できそうなところはいっぱいあるからできる。

また、衣類のことでいうと、「イルミオマルキーオ」という「僕のブランド」という名前で、原宿の裏原宿のブランドのものを作っている人たちを巻き込んで、例えば、SDGsそのものですが、お父さんが亡くなって残った衣類とか、捨てようと思った衣類とか、何とか活かして端切れにして、一番シンプルなものだと自分のTシャツにちょっと貼り付けると1点ものができる。もうちょっとやる気がある人たち向けには、おじさんたちが手伝ってくれて、オリジナルのシャツを作る。それをネットで売る。一番注目しているというか、たぶん2年後くらいには有名になっていると思いますけれども、例えば、自閉症の子たちの絵というのは、エイブル・アートとあって、まあまあ商売になっている。重度の重複障害の子は配慮されている枠組みなのですが、実はすごい絵を描けるということがわかってきた。意味化しないだけに逆にすごい。トップの画家の人たちもすごいと言っている。それをシャツにして、その子たちにも税金を払ってもらおうということの高校生社長とかがいると、本当に社会的に意味もあって、自分もめちゃくちゃ面白いし、世の中を変えるみたいなの。生半可じゃないアイデアが社会変革につながるし、面白いことであれば、やりたいやつだらけ。みたいなことを前橋発でやるとか。

あとは、シンプルにさっきの自習室みたいなのが、代々恩送りシステムになっていて、大学生になったら、高校生が教えに来るし、高校生、中学生教える。例えば、本当のお金だといやらしくなるので、「5まえばし」あげるとか、「6やまもと」あげるでもいいのですけれども、地域通貨を市として発行してあげる。高校生が稼いだ地域通貨を市では鉛筆が買えるとか使えるようにする。本当のバイトというよりは、地域に根差した形で恩送りシステムで地域通貨なのだけちょっとマネタイズをつけるとか。そうすると、本当にお金に困っている子とかちょっと面白そうじゃないですか。「おれ『100まえばし』貯まったし」みたいな。恩送りシステムにちゃんとマネタイズ部分をしっかりつけてあげるみたいなことは、やる気が上がるのではないかなと。例えばさっきの部活でも、プログラミングできる子は小学生に教えるけど、ちゃんと地域通貨がもらえるようなバイトになっているとか、書道を教えるのでもミニバイトという形でちゃんとつけてあげていくっていうのは、すごく面白いのではないかなと思いました。

このぐらいにしておきますけれども、もう一つは、今日図書館のこと聞いたのですけれども、すごい夢があるなど。僕は武雄市でたまたまやっていたので、TSUTAYAが入った、本当にひと悶着あったけれども、出来たら各地から観光バスが押し寄せる図書館になったわけです。それはいろんなところもある程度真似していますけれども、ああいう外の発想みたいなことを、本当にそこに行きたい、高崎の高高とか高女の子たちが行きたいとなるような前橋図書館を作っていくっていう発想で

色々仕組む。それは色々あるのですけれども、さっきみたいなプロジェクトがいっぱい回っている会社とか部屋みたいなのがあったりとか、あとは、図書館だとどうしても、上積み部分の話になりますけれども、ブックトークって言って、自分が読んだ本を人にしっかり伝えられるというのは、本人にもめっちゃくちゃためになるし、周りも良い。「あいつが紹介した本良かったよ」みたいな。あの効果って高校生絶対欲しがっていると思うので、ブックトークがずっと行われている図書館とか、そういうアイデアを盛り込んで、本当に格好いいし、頭も良いし、イケてる図書館みたいなのを。僕が言いたいのは、高校生がそのプロジェクトに最初から入れるということです。高校生として入らないかというのは、かなりやる気ができるのではないかなと。このぐらいにしておきます。言い出したら僕は切りがないので。

教 育 長

なかなか私たちにない発想だなと思って伺っていました。

やはり、高校生の変えるパワー、自分たちが何かを変えられるのだというパワーを私たち大人が認めてあげる。それで良いのだよと。そして、自分たちが何か達成した想いというのをマネタイズできるような、地域通貨などのアイデアもいただきました。これから私たちが考えていかなければいけない図書館ですね。これも思いっきり高校生を巻き込みながら、彼らが将来的に存分に使っていける図書館を考えられたら良いなと思います。図書館長、今のようなお話をいただきましたが、いかがでしょうか。

図 書 館 長

色々参考になるご意見ありがとうございます。現在、図書館の方でも、ワーキングメンバーという形で市内の大学や高校などにも依頼を出しまして、参加していただけるような学生を公募しているところでございます。そういったやる気のある彼らを取り込みながら、これから長く使っていただくメインのターゲットになりますので、彼らのご意見、もしくは企画力・発想力そういったものも取り込んでいきたいと考えております。

教 育 長

ありがとうございました。今、委員の方々から様々なアイデア、お考えを伺いましたけれども、ここで市長さん高校生や若者の力を活かす前場モデルへの期待というものをお話いただければと思います。

市 長

やっぱり主人公は本人ですから、本人がどうやって自らを起動させる気にさせるかっていうことだよね。それは大人のアイデアでは、たぶんできないですよ。高校生学習室を運営しているリーダーは今、大学生でしょう。彼らたちが、何をどうやって動かしていくのかということ。ま

あちよつと見せてもらおうじゃないかというのが、本音です。

そこから僕たちが学ぶものがあるって、公としても応援できるものがあるれば、そこをどんどん応援していける。今、高濱さんがおっしゃったような前橋文具チケットみたいなものがもしできるのであれば、こういうものもやっぱりサポートしていくということが、彼らたちがまさに、最初に起動させて、そこからぐるぐると回りだして、その次の世代までもまた巻き込まれていくような仕組みづくりということなのだろうと思いますね。

それがビジネスになって、起業になって、まさにマネタイズの話まで広がっていけば、それはとてもうれしい話じゃないですか。まさに子供の起業家の街みたいになったら嬉しいです。

教 育 長

高校生の可能性を引き出すというのは、教育委員会も熱心にやっていたかなければいけないことですが、教育委員会が市長部局と連携して、様々行っていく必要もあるかと思います。

昨年度、未来創造部では、総合計画の見直しの際に、高校生の参画に取り組んだと伺っておりますけれども、このあたりをご説明いただけますでしょうか。

未来創造部長

未来創造部から令和2年度の高校生の市政参加の取組について、ご紹介したいと思います。

今回の総合計画の見直しに際しましては、新たな市民参画の手法といたしまして、前橋自慢と称する写真の募集を行うとともに、本市のまちづくりに関する意見を募集したところがございます。この取組では若い世代の前橋市の良さを発見・再確認してもらいたいという狙いから市内の高校や大学へ個別訪問を行いまして協力をお願いしたところ、多くの高校生からの応募をいただいたというものでございます。

スライドをご覧いただきたいのですが、左側の写真、いずれも高校生の作品ということになります。応募された写真は、実際に総合計画の改訂版に掲載した他、市の記録として、今後・各種資料に活用を図っていく予定でございます。

次に右側のイラストでございますが、関越自動車道のカントリーサイン・デザインの優秀作品として選ばれた高校生の作品でございます。カントリーサインはご存じのとおり、都道府県や市町村の境界を示す標識であります。道路における実際のランドマークということで設置されているものでございます。

今回、400点の応募がありまして、受賞者作品はシティプロモーションとして、職員の名刺のデザインなどで幅広く活用しているところがございます。

このように本市では、新たな取組を進める中で、高校生などでも気軽

に参加できる方法によりまして、若い世代の市政への参画を進めているところでございます。報告については、以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。高校生が色々ところで頑張っているなと感じます。今後も委員の皆様と一緒に、市長さんと一緒に高校生の可能性をどうやって引き出していくか、仕掛けづくりを考えていきたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

教 育 次 長 たくさんのご意見ありがとうございました。
また、教育長におかれましては、円滑な進行ありがとうございました。そろそろお時間が迫ってまいりました。最後に山本市長の方から一言お願いいたします。

市 長 本当にありがとうございました。
青木部長から高校生の参画という言葉があったのですけれども、参画というのは、僕たちの作ったフレームに高校生を呼び込むということであって、そうではない。フレームワーク自体を高校生がやるのです。そこまでイニシアチブをとらせておいて、やってもらうというフィールドを作っていくということが、僕たちのやるべきことなのだろうと思う。その概念から変えていかないと、高校生がやはり僕たちのただの駒でしかなくなっていくというのは、つまらぬことだろうと思います。

そういう意味で今日ここに来る前に僕たちが学んだタブレットの使い方だとか、あれをビジネスに使いだすという子供がいたときに、どういう僕たちの法解釈を動かしていくのか、様々なチャレンジを挑まれる側に僕たちはなっていくのです。その覚悟がなければ、子供たちの主体という言葉は使わない方が良いでしょう。僕はそのくらいの気持ちで前橋の子供たちの主体を導いていくという、その覚悟を持って、教育委員会がおられていただけるものだと思っております。今日はそういう意味で4人の教育委員さんのお話をお聞きして、良かったなと思えます。自分なりのメッセージだけは伝えさせていただきたいと思えました。

大雨の中、もう止んだようでございますが、皆さん、どうぞそれぞれお気をつけてありがとうございます。

教 育 次 長 ありがとうございました。次回の予定につきましては、例年、12月頃に開催をさせていただいているところでございますけれども、日程等につきましては、後程、ご相談させていただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(異 議 な し)

教 育 次 長

それでは、具体的な議題・日程につきましては、改めて事務局の方からご連絡を申し上げます。

以上をもちまして、本日の会議事項は全て終了いたしました。

これにて、令和3年度第1回総合教育会議を閉会いたします。

どうも長時間にわたり、ありがとうございました。

(午後3時56分)